

平素は私の議員活動に対しまして温かいご理解とご支援を賜り深く感謝申し上げます。

早いもので県議会議長になってから、半年以上が経ちます。議長になりまして今まで見る政治の景色が変わりました。やりがいを持って仕事をさせて頂いています。同時に、その責任の重さも感じています。岡山県民皆様の顔が明るくなるようにとの強い思いをもって、これからも県政の課題に当って行きます。

今回の県政だよりではこの半年間を振り返るとともに、今後のことについて綴りました。最後までお読み下されば幸せに存じます。末筆になりますが、皆様のご健康ご多幸をお祈り申し上げます。

岡山県議会議長
太田正孝

県議会の動き

6月定例岡山県議会

議員定数並びに選挙区の見直しに関する条例が成立して、来春の統一地方選挙の岡山県議会議員選挙では、議員総定数は現在の55から54になり、選挙区は19から18になる。私が選挙区にしている岡山市北区・加賀郡選挙区は定数が8から9に増員となる。



9月定例岡山県議会

2030年開催のプロ野球のオールスターゲームに向けての準備

知事は倉敷マスカットスタジアムに大型LEDビジョンを整備する考えを明らかにした。これまで外野の芝生を改修し、内野席（バックネット裏や1塁側、3塁側の内野席、合計約5800席）の更新も準備されて来たところですが、この答弁を聞いてスコアボードのLEDビジョン化も間違いなく行われるだろうと感じた。また、地元自治体を含めた新たな組織を立ち上げて、機運を高める等をしていきたいとの方針も示した。

産業団地

県当局は「産業団地整備は市町村が行うもの」としてきましたが、高市政権の政策を受けて産業団地整備について新しい手法を検討すると公言されました。県議会から再三提案されてきたことがようやく受け入れられました。

岡山県議会議長
太田まさたか
おおた



プロフィール
昭和39年生まれ　61歳
〈役職歴〉
県議会副議長・県監査委員
議会運営委員会委員長
総務委員会委員長
農林水産委員会委員長
土木委員会委員長
（選挙区：岡山市北区・加賀郡）

県政だより　令和8年　VOL.59
編集責任者：太田正孝　岡山市北区延友455　TEL.（086）201－5523

県政の動き

航空会社のダイヤ調整について



今年5月、収支が悪化している国内線の維持に向けた指針が示された。これを受けて、国内で初めて岡山空港と羽田空港を結ぶ東京線においてダイヤ調整が行われる。現在、ANAとJALがそれぞれ毎日5往復を運航しているなかで出発時刻が近い便があったが、その間隔が長くなるので利用者にとっては利便性が増すことになる。10月25日から実施されています。

GX戦略地域コンビナート等再生型　認定は見送り

9月11日に経済産業省はグリーントランスフォーメーション（GX）戦略地域の第1弾として18地域を認定したと発表した。認定されると、GX経済移行債を財源とする設備投資向けの補助金を受けたりなどのメリットがある。岡山県はコンビナート跡地を活用する「コンビナート等再生型」に申請していたが、この度は認定を見送られた。今後、計画の熟度が高まれば、認定されることになる（10月20日時点）。



南海トラフ巨大地震の被害想定の誤り等を訂正

今年2・3月に公表した南海トラフ巨大地震の被害想定や7つの断層型地震の被害想定について、7月に誤りや記載漏れが計35項目あったとの報告があった。訂正後の帰宅困難者数は県全体では最大「15万6218人～14万9388人」は公表時の「16万1455人～14万4151人」よりも減っているが、この内訳を見ると岡山市は最大「6万2388人～6万5531人」で公表時の「4万8788人～5万3386人」よりも増えている。これは通勤・通学、観光を含む「滞留人口」で算定すべきところを、居住人口を使用したためである。そして、残り34項目は、山崎断層帯主部や中央構造線断層帯など7つの断層型地震の被害想定である。災害関連死者数や避難者数、停電軒数などが修正された。それに伴って災害シナリオ（医療）等の記述も修正されている。関係者に大変ご迷惑をおかけした。県当局も反省をしている。筆者も申し訳ない気持ちである。今年は天災が多かった。今後は防災に関するデータの取り扱いについてもっと慎重に丁寧に取り組むことをお誓いします。

河道掘削を計画的に進めています。

今年は台風や線状降水帯の発生が多く、全国で水害が多かった。岡山は晴れの国と言って安心はしていられない。現在、計画的に堤防改修や河道掘削等を計画的に進めています。県議会からこれらの予算の拡充の声が高まっています。



太田正孝が FOCUS

岡山県教育委員会の探求学習

高校生の作った「はるいろカヌレ」

9月20日の岡山×香川つながる食の大博覧会ステージで、井原高校生が学校の探求学習の成果を発表した。

彼女は探求学習でカヌレを作ることにした。どんなカヌレかというと、生地に「明治ごんぼう」を使用し、立石園の香り高い抹茶をブレンドした抹茶チョコでコーティングしたカヌレのトップに小田川の桜を思わせる絞り出しクッキーを載せた、どこにも井原の魅力をぎゅっと詰め込んだ、お菓子である。レシピ通りに作ったカヌレ80個を地域連携企画のイベントに持ち込むと開店30分で完売。うれしい反面、並んでも買えなかった方々に申し訳ないとの気持ちになったとのこと。そういう思いを残していたところ、「井原桜まつり」での販売企画が舞い込んでくる。前回の反省を踏まえて、今度はもっと多く作って多くの人に喜んでもらいたいとの思いから、入念な製造計画を立てる。彼女に賛同する人が多く現れて、材料の提供や製造の協力等を受ける。そしてカヌレ330個を製造。今度も4時間で完売。いつも計画以上のことが出来ていて、周りからは順風満帆に見えたに違いないと彼女は云う。この講演の最後に彼女は、「苦労も多かった。大人との連絡などは大変であった。一人では決して出来ることではないことが出来た」と語った。とても貴重な経験をされたと思う。

岡山県教育委員会の探求学習について深く知る機会になった。こうした事業の充実が図られるように岡山県議会文教委員会においても取り上げていきます。


発表風景

N-E.X.T. ハイスクール構想

文教委員会ではN-E.X.T.（ネクスト）ハイスクール構想の議論が盛んに行われている。

N-E.X.T.ハイスクール構想とは就業構造が大きく変わるといわれる2040年に向けた国の高校改革の名称。「N」は「New」、「E」は「Education」、「X」は「Excellence」、「T」は「Transformation」のつづりから出来ている。この議論で大切なのは、現在と未来を結ぶことである。今までの教育を変えようとする構想である。どう変えて行くのか。文部科学省は都道府県に高校教育改革拠点校候補を挙げるように求めた。予算額は約3千億円で各県に約60億円を投資するとしている。岡山県からは4校が申請した。6月30日に2校が採択された。不採択となった2校は再申請した。

再申請も不採択に

9月15日に再申請した学校の審査結果が公表された。再申請は28都道府県72校で、新たに60校が採択された。岡山県の再申請した高校はともに不採択となった。文部科学省はこれ以上の再申請は予定しておらず、この不採択の12校は基金（約3千億円）の対象外となる。今回の結果は岡山県にとって本当に残念である。

技能教育に注力を

菅義偉首相時に専門科高校へ1千万円もするような工作機械や設備等の大規模投資があった。今回のN-E.X.T.ハイスクール構想はその時よりもはるかに大きな投資である。政権が変わると、このようなことが起こるのだ。この国の動きに岡山県も呼応するべきである。しかし、前述のとおり2校のみの採択であった。投資額38億3千万円と少なくなったが、それでも過去になかった投資である。文教委員会で採択された二校の教育環境の充実を強く訴えている。

子どもたちに何を芽生えさせるべきなのか

高度経済成長時代の工業社会では大量のホワイトカラーが必要であったが、「ポスト工業化社会」では社会課題解決やイノベーション創出につながるような能力・スキルが一層求められていく。これからは個人のネットワークや創意工夫、アイデアが重視されるということである。ついては、教育には人間ならではの〝能力を伸ばす〟ということが求められる。現在の教育はこうした方向に舵が切られていると受け止める。

東岡山工業校ではアクアポニックスに挑戦

この創意工夫やアイデアを重視する教育は、高校の専門科に向いている。採択された一校の東岡山工業校ではアクアポニックスに挑戦している。アクアポニックスとは水産養殖（アクアカルチャー）と水耕栽培（ハイドロポニックス）を掛け合わせた造語である。以前にこのアクアポニックスの循環型農法を見せて下さるというので、その取組を見せて頂いたことがある。

教室の中で、魚の排泄物由来の窒素やリン酸を植物栽培に利用する装置を作り上げていた。水槽の水質管理を学校で学んだ化学分析の技術を駆使して行っていた。これだけでも凄いことであるが、これだけでは循環型農法のシステムは作れない。養殖技術を岡山理科大学から、植物栽培の技術を瀬戸南高校から学んで、どちらの技術もシステムに実装していた。その折に同校の機械科、電子機械科、工業化学科、設備システム科、電気科の5つの専門科も連携を図って、学校を挙げての生物生産に取組になっていた。

こうした取組をして来た東岡山工業高校が新な挑戦をすることになった。N-E.X.T.ハイスクール構想にサイバニックフィジカルAIに挑戦するとして申請すると、文科省に採択された。皆で喜び合った。

サイバニクスとは何か?

もう一つ採択された学校は岡山操山高校である。こちらも「サイバニックフィジカルAI」に触れることにしている。こちらも筑波大学サイバニクス研究センターの山海嘉之博士が指導に当って下さる。同博士の研究している「サイバニクス」は聞き慣れない言葉である。それは何か。人・ロボット・AI・情報系を融合／複合した新しい学術領域である。同センターは人協調型ロボット研究をはじめ、細胞培養、MRI画像解析など、基礎から実際までの幅広い研究に取り組んでいる。



未来社会を展望する力を身に着けてほしい

いつの時代も新たなテクノロジーの活用によって私たちの働き方は変わって行く。フィジカルAIの導入に当って『AIにできること』と『人間にしかできないこと』を理解しておかなければならない。こうしたことを高校時代にしっかり考えることはとても大切である。高校時代に未来社会を展望する仕方に触れてほしいと願う。

未来社会を担うのは人である

いくらフィジカルAIが進歩しても、社会を支えていく主役はロボットではなく人である。人が活躍し、経済が持続可能に循環し、生活が豊かになるためには、「人間ならではの能力」が大きなカギを握っていることは間違いない。このことも一緒に学んでほしい。

〝人間ならでは〟の能力を伸ばす

〝人間ならでは〟の能力を伸ばすことは、どうすれば出来るのだろうか?難題である。AIは「情熱」や「好奇心」を持っていない。この二つを持った人間には自分の能力を伸ばす可能性を持っている。好きなことに夢中になった時に、思わぬ力が出た経験を持った人がおられると思う。その思わぬ力こそ〝人間ならでは〟の能力だと思う。教育や人材開発において、『情熱』や『好奇心』の重要性を、今後はもっと重視すべきである。そうした教育が採択された東岡山工業校と岡山操山高校で行われると望んでいる。

今議論となっているのは施設整備の中身である。

てくてくまさたか 東奔西走 議長まっしぐら

6月3日 岡山―ソウル線 就航35年周年記念式典【岡山桃太郎空港】



この空路はこれまでに261万人利用されている。ディリー運航に戻せるように、県当局も頑張っている。

6月7日 清水宗治公444回忌祭典【備中高松城址公園】



宗治公の兵を助けるために取れた行動は今も地元で語られている。この日参加した約400人の方々は宗治公のことを偲んでおられた。

6月14日 南オーストラリア州のフランシス・アダムソン総督 来岡【岡山市】



総督は岡山市のまちなみを見て回られた後、県内の高校生とオンラインで交流をした。案内役を務めた伊原木知事は教育面での交流促進を要請した。私は懇談から参加させていただいた。教育面の他に、産業やエネルギーの面についての取引をこれまで以上に盛んにしていくことをお願いした。担当官から前向きな言葉をたくさんいただいた。

7月14日 清水白桃出荷進発式【一宮選果場】





式典後、清水白桃を積んだトラックが拍手に見送られて出発した。

7月22日 全国都道府県議会議長会 第184回定例総会【都道府県会館（東京）】

総会では決算、予算の審議の後、人事が協議された。私は農林水産委員会副委員長に決まった。農林水産業は岡山県にとっても重要な分野である。地域の声を全国知事会にもしっかりと伝えて行きたい。そして、国や県の農林水産業を元気にしていきます。

7月23日 首相と都道府県議会議長との懇談会【総理大臣官邸】


都道府県会館での会議の様子

高市首相から「国内投資」に注力するとの話があった。その国内投資のもとになるのが「地域未来戦略」―『戦略産業クラスター計画』、『地域産業成長プラン』―である。二番目については都道府県のアイデアに、三番目については市町村のアイデアに基づくものとなる。そして国としてはインフラ整備を進めるとともに「地域未来交付金」を拡充することを明言された。

8月3日 中国五県正副議長会議【米子】



岡山県が提案した「地方空港等の機能充実に対する国の支援拡充を求める要望」も国に要望することになった。

8月6日 タイガーエア台湾（台湾虎航）に要望

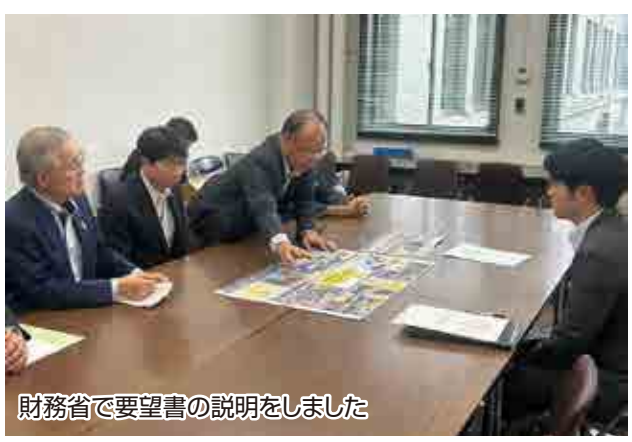
台北（桃園）―岡山線を担うタイガーエア台湾（台湾虎航）とのビジネス交渉に知事と共に出席した。現在、台北線と高雄線を合わせて週12往復を運航しているなか、更なる増便を要望した。波に乗るタイガーエア台湾との関係をこれまで以上に強い絆を作る機会になったことを強く感じる訪問となった。


タイガーエア台湾会長と

8月7日 国への要望活動 国道交通省と財務省、復興庁【中央合同庁舎】

7月下旬に岡山県・市町村会・市町村議会に加えて岡山県議会も参加して開催した「県土づくりを推し進大会2026」でまとめた決議書を持って、知事らと共に要望。

主な要望内容は旭川ダム再生事業をはじめとする治水対策や国道二号バイパス連続立体交差事業、県南と県北を結ぶ幹線道路整備、水島港の整備等である。


財務省で要望書の説明をしました

8月14日 岡山学芸館 花巻東【甲子園球場】 4－1



さすがに花巻東は強豪である。一回から畳みかけて来た。2点先制を許す。

その後もヒットを多数打たれるも、ダブルプレーやレフトの好返球ホームタッチアウトなどで

次ページへ続く！

二回以降は相手を抑え込む。よく鍛え抜かれたチームである。選手誰もがカッコ良かった。しかし、粘り切れなかった。終盤にかかって、一点ずつ加点された。それでも選手たちは諦めなかった。4点を追いかける8回、1死2塁3の場面から、内野ゴロの間に1点を奪い返す。アルプススタンドはこの日一番の盛り上がりとなった。

勇気と元気をくださったチームと選手の皆様お疲れ様でした。有難うございました。

8月15日 全国戦没者追悼式【日本武道館】

天皇皇后両陛下、高市早苗首相、戦没者遺族の皆様らが参列のもと執り行われました。

天皇陛下から戦中・戦後の苦難を今後とも語り継ぎ、私たち皆で心を合わせて、将来にわたって平和と人々の幸せを希求し続けていくことを心から願いますとの言葉がありました。

戦後81年となり戦後生まれの日本人が多数となりましたが、日本の歴史をしっかり語り継ぐことを忘れてはならない思いをあらたにしました。



石原宏高環境大臣(中央)
福田俊史鳥取県議会議長(右)

8月18日 中国四国九県議会正副議長会議【愛媛県松山市】



議題は「地方鉄道の維持・確保について」と「少子化対策としての結婚支援の推進について」の二つであった。後者は岡山県議会が提案した。両件とも各県議会のご了承の上、関係先に要望することとなった。

そして、「開かれた議会の実現に向けた各県議会の取組みについて」をテーマに情報交換を行った。岡山県議会からは高校生議会の開催をはじめとする取組を紹介した。他県議会からはフォトコンテストの実施などが紹介された。

8月25日 日本財団職親プロジェクト中国岡山支部第9回連絡会議【岡山市】

この団体の目指すところは出所者・出院者が再チャレンジできる社会、誰もが犯罪被害に悲しまない社会の実現です。四つの事例発表を聞きました。どなたも多くの人のサポートを受けながら再犯をしないように頑張っていました。支える人や関わる人が増えることによって、前に進む力が生まれるのではないかと感じました。県との繋がりも期待されていました。社会復帰の道をもっと整備して行かなければなりません。



私も出来る限りのことをしたいとの思いを強くしました。

8月31日 三木記念賞授与式【ルネスホール】



佐野俊二先生(中央)

受賞者は小児心臓外科医の佐野俊二先生。先生は岡山大学に小児心臓外科チームを立ち上げ、岡山大学を世界が認める病院にしていったとのこと。

現在は東南アジアの医師や看護師の育成にも精力的に取り組まれている。

9月15日 地域公共政策セミナー（講師：山海嘉之博士）【岡山県議会】

世界初の装着型サイボーグHAL®を開発した山海嘉之博士は「今の社会は専門で細分化され、教育まで細分化されていっている」との指摘した上で、サイバニクス研究センターでの研究方針を説明して下さった。

その方針とは、技術の社会還元、ルール整備、人材育成、経済サイクルまでを総合的に検討して研究をするというものである。

そして人協調型ロボット研究を生活支援に応用にして行っている話もして下さった。


山海嘉之博士の講演

10月4日 子ども食堂「みのみの食堂」【岡山市北区北方】

記念すべき第一回に行きました。カレーライス、サラダ等全て地域の皆さんの手づくりです。親子で来られた家族の方とお話をしながら、楽しいひと時を送ることが出来ました。こうした活動が増えることは本当に素晴らしいことです。



10月10日 国民スポーツ大会総合開会式【青森市】


マエダアリーナ

49年ぶりの青森での大会で、初の屋内での開会式でした。

岡山県選手団入場行進はとても素晴らしかったです。観客席から声援を送りました。



10月18日 第37回足守メロンまつり【近水公園】

生産農家が準備したメロン1400玉を買い求める人達が、開会前から長い列を作っていました。天気も良く、会場は大賑わいでした。



編集後記

19年ぶりに文教委員になりましたので、今号の県政だよりでは文教委員会の話題を中心に編集をしました。まとめていて、教育も多くのチャレンジをしていることを再確認しました。同時に、少子化の影響も色濃く出始まっているとことも感じました。県議会で県政の課題について活発な議論をして、明るい県政にしていきます。

（M・O）